
一般演題（口頭）

一般演題（口頭）20 タスク・シフト/シェア・スキルミックス1

座長: 石渡 泰芳（東京科学大学病院薬剤部）

2024年11月2日(土) 10:30～11:30 第11会場（幕張メッセ 国際会議場 1F 105会議室）

[2-11-O20-2]薬局 DX推進時に求められる支援に関する意識調査

○佐藤 七香¹, 佐藤 宏樹^{1,2,3}, 柳 奈津代¹, 古賀 友一郎^{3,4}, 長谷川 佳孝^{3,5}, 森 和明^{3,6}, 澤田 康文^{1,3} (1.東京大学大学院薬学系研究科 育薬学講座, 2.東京大学大学院 情報学環, 3.2023年度医療薬学学術第2小委員会, 4.一般社団法人福岡市薬剤師会, 5.株式会社アインホールディングス, 6.株式会社ユヤマ)

【目的】近年、薬局をはじめとした医療・介護領域でも DXの基盤が整備されつつあり、臨床現場における DXの推進が期待されている。本研究では、臨床現場で薬剤師が DXに対応できるよう、薬局 DX推進時に求められる支援を明らかにすることを目的とした。

【方法】日本薬剤師会を通じて全国の薬局薬剤師を対象に、ウェブアンケートを実施した(2023年9月13日～2023年12月1日)。マイナ保険証や電子薬歴等の機器・システム18種に関する利用状況(利用中か否か、不明から選択)や活用実態(不自由なく使用できる/使いこなせていない等から選択)、必要な支援(導入時の財政的支援/研修/機器の仕様統一等から複数選択)等を質問した。

【結果】1813名から回答を得た。利用中と回答した人の割合が高い機器・システムの上位3つはオンライン資格確認システム、電子薬歴(クラウド以外)、電子お薬手帳で、いずれも6割を超えた。これらの機器・システムは高い普及率を示す一方、当該機器・システムを不自由なく使用できると回答した人の割合は60歳以上の薬剤師で低い傾向が見られた。必要な支援は機器の仕様統一、導入時の財政的支援、研修の順に多く、いずれも半数を超えた。大規模薬局グループの薬剤師は研修の充実や機器の仕様統一を求める声が多かったのに対し、規模が小さい薬局の薬剤師は導入時の財政的支援や調剤報酬制度上の支援を求める傾向にあった。

【考察】機器・システムの使用に際しては、研修や機器の仕様統一等が求められており、特に高齢の薬剤師に対する重点的な支援が必要であると推測された。また、導入時には特に個人経営の薬局に対する財政面での援助等が求められることが示唆された。本研究の結果をもとに薬剤師への支援を立案・実施し、薬局 DX推進の一助としていきたい。

薬局DX推進時に求められる支援 に関する意識調査

○ 佐藤 七香¹⁾, 佐藤 宏樹¹⁾²⁾³⁾, 柳 奈津代¹⁾, 古賀 友一郎³⁾⁴⁾, 長谷川 佳孝³⁾⁵⁾, 森 和明³⁾⁶⁾, 澤田 康文¹⁾³⁾

- 1) 東京大学大学院薬学系研究科, 2) 東京大学大学院情報学環, 3) 2023年度医療薬学学術第2小委員会,
4) 一般社団法人福岡市薬剤師会, 5) 株式会社アインホールディングス, 6) 株式会社ユヤマ

はじめに

デジタル化

Digitalization

既存のシステムをデジタル技術に置き換えて効率化を図ること

例) これまで紙媒体で行っていた契約書作成業務を、電子契約を導入してインターネット上での作成に切り替えた



デジタル化を手段として、ビジネスを変革していくこと

デジタル技術だけでなく、顧客の属性や業界の動向などのデータやそれを解析・応用する技術が必要とされる

例) 新型コロナウイルス感染拡大時に、デジタル技術を活用し、マスクを医療関係者などの必要度が高い顧客に優先販売する仕組みを開発したことで、迅速に新型コロナウイルスの感染拡大防止に貢献した



近年様々な領域でDXが進んでおり、DXに取り組んでいる企業は73.7%にのぼる

(IPA 独立行政法人 情報処理推進機構, 「DX動向2024 DXの取組状況」)

背景・目的 医療のDX化に際し、薬剤師が抱える課題と支援策の調査を行う

医療DX令和ビジョン2030 (厚生労働省)

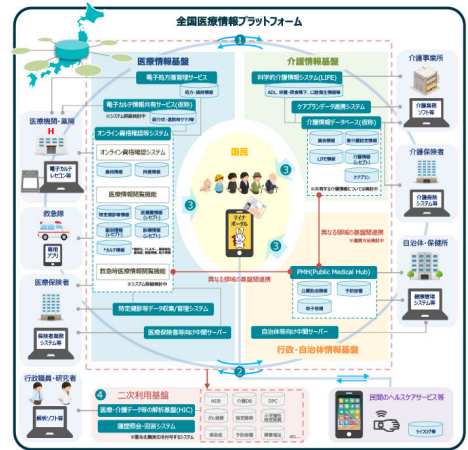
「医療分野の情報のあり方を根本から解決する」ための提言

- ✓ **医療DXの定義** (厚生労働省, 「医療DXについて」より抜粋)
「全体最適された基盤を通して、保健・医療や介護関係者の業務やシステム、データ保存の外部化・共通化・標準化を図り、国民自身の予防を促進し、より良質な医療やケアを受けられるように、社会や生活の形を変えること」

✓ 全国医療情報プラットフォーム

マイナポータルを通じ、医療機関や介護施設で患者の医療情報を一元管理・リアルタイム共有できる
緊急時の迅速な情報共有、個人の健康増進などに役立つ

医療・介護領域でDX化が推進されており、臨床現場で新たなシステム・サービスを活用できることが求められる



厚生労働省, 「全国医療情報プラットフォームの概要」

薬剤師を対象とした医療DX推進に関する大規模調査は実施されていない

本研究は、薬剤師が現場でDXを活用できることを目的に、課題と支援策を明らかにするための**アンケート調査**を行う

方法・データ 薬局薬剤師を対象にwebアンケートを実施した

対象者

全国の薬局薬剤師

データ収集

日本薬剤師会を通じ、所定のgoogle formに入力

調査期間

2023年9月13日~2023年12月1日(約3ヶ月)

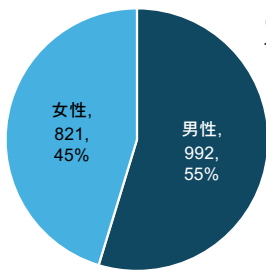
アンケート質問項目

- ✓ **基礎情報** : 年齢、性別、勤務先薬局のグループ規模、役職・立場など
- ✓ **DXに対する一般認識** : DX推進への賛否、DXの利便性に対する認識など (選択式)
- ✓ **医療DXへの対応状況** : 電子お薬手帳や電子薬歴等の機器・システム18種(点線内)に対する利活用の実態 (選択式)
例) 勤務先の薬局では、以下の機器・システムを現在、利用していますか。→利用しているか否かを選択肢から単一回答
あなたは以下の機器・システムを使いこなせていると思いますか。→不自由なく使用できる、使いこなせない等の選択肢から単一回答

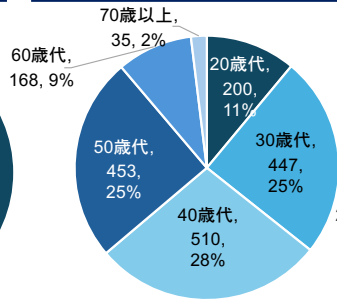
電子薬歴 (クラウドは除く)	電子薬歴 (クラウド)	音声入力システム
電子お薬手帳	自動発注 (在庫管理) システム	患者フォローアップの自動化システム
オンライン服薬指導システム	電子処方箋	オンライン資格確認システム (マイナ保険証)
自動調剤機器	調剤過誤防止システム 自動監査システム	ICT基盤の地域医療連携
IoTお薬カレンダー	服薬補助機器 (ロボ)	在宅業務支援システム
医療用アプリ (禁煙、高血圧)	会計の電子決済システム	
- ✓ **医療DXへの期待や支援** : 医療DXに期待すること、必要な支援など (選択式)
例) 薬局におけるDX化に対して、何か支援が必要ですか。→導入に対する財政的支援、薬剤師会や会社による研修などから複数選択可で回答

結果 回答者に大きな偏りはないが、管理職が過半数を占める

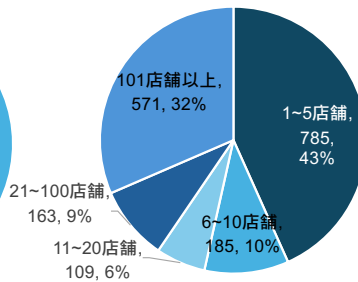
性別 (n=1,813)



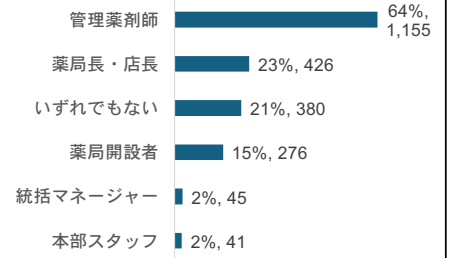
年齢 (n=1,813)



勤務薬局のグループ規模 (n=1,813)

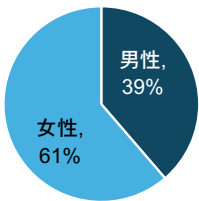


役職・立場 (複数選択可, n=1,813)

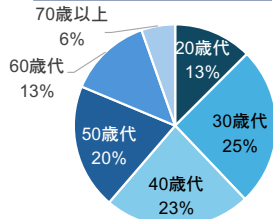


参考 : 全国の薬剤師に関する統計

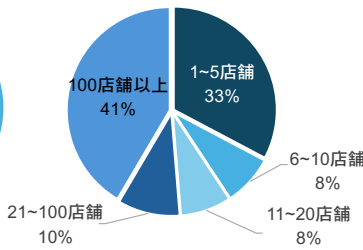
性別



年齢



勤務薬局のグループ規模



回答者は全国の薬剤師の統計から大きな偏りはないが、

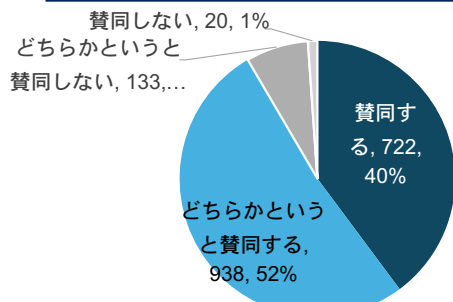
- (1)女性よりも男性の回答者が多い
- (2)管理職の回答者が過半数を占める

という特徴が見られた

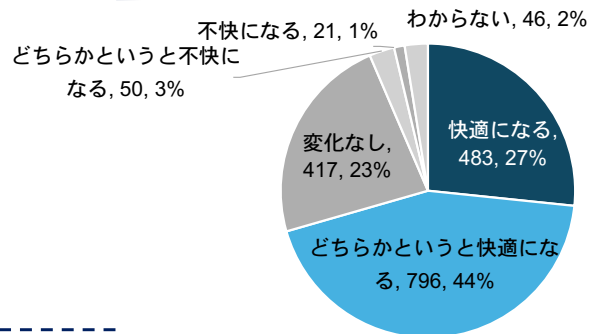
性別、年齢：厚生労働省、「薬剤師に関する基礎資料」より算出
勤務薬局のグループ規模：厚生労働省、「医療経済実態調査」より算出

結果 DXに肯定的な見方を示す薬剤師が多い傾向にある

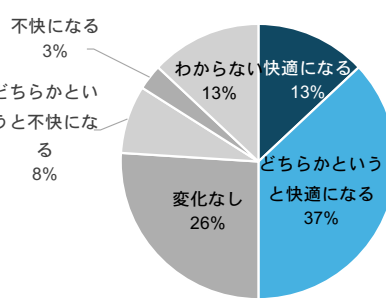
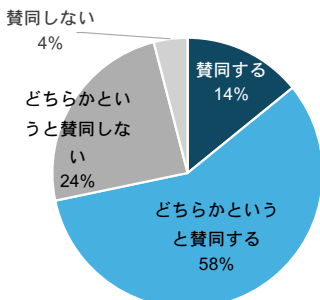
DX推進に対する賛否 (n=1,813)



DX化が社会に与える影響・変化 (n=1,813)



参考 : DXに対する国民意識調査



- DX推進に対して肯定的な見方を示す薬剤師は9割を超えた
- DX化が社会に与える影響を効果的に捉えている薬剤師は、7割を超えた

薬剤師は、DX推進及びDX推進が社会に与える影響について、前向きに捉えている傾向がある

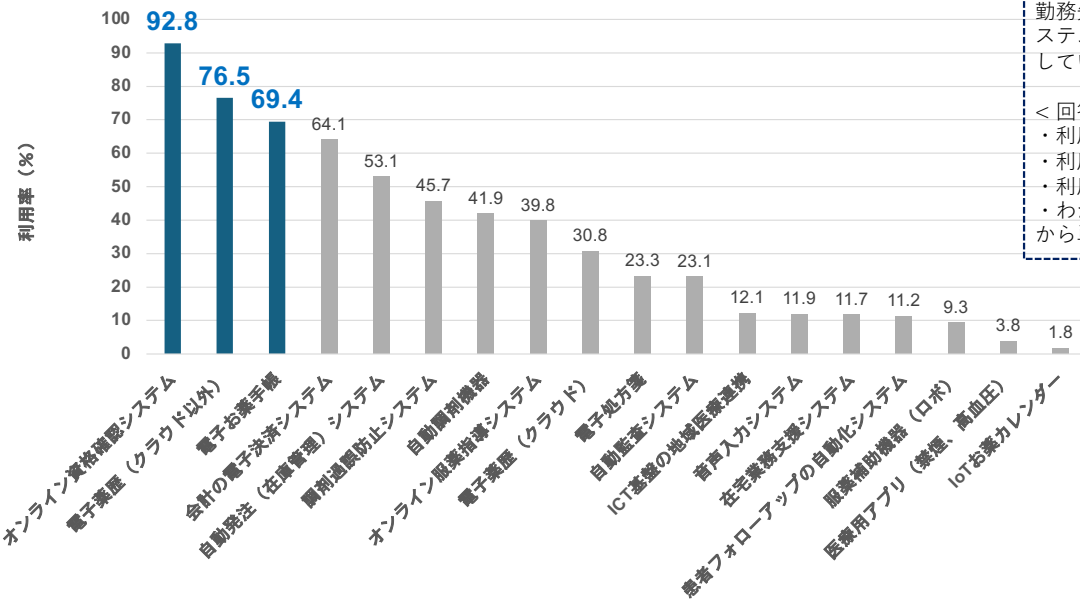
文部科学省、「科学技術に関する国民意識調査-DXについて」より作成

結果 各種機器・システムの利用率は、オンライン資格確認システム、電子薬歴(クラウド以外)、電子お薬手帳が上位3つであった

各種機器・システムの利用率

< 質問項目 >
勤務先の薬局では、以下の機器・システム(グラフ中18種)を現在、利用していますか。

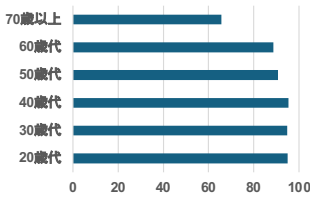
< 回答方法 >
・利用している
・利用していない (導入予定あり)
・利用していない (導入予定なし)
・わからない
から単一選択



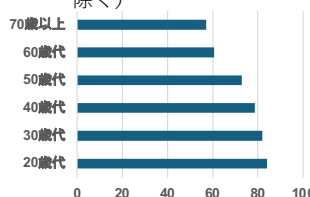
結果 年代が上がるほど、利用率の高い機器・システムの利活用であっても困難を感じる傾向がある

利用率

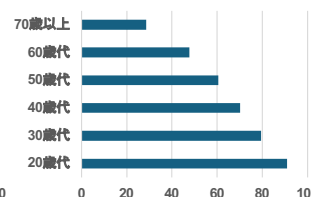
オンライン資格確認システム



電子薬歴 (クラウドは除く)



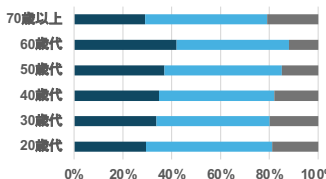
電子お薬手帳



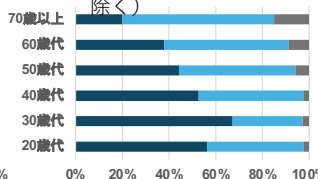
< 質問項目 >
勤務先の薬局では、以下の機器・システム(グラフ中18種)を現在、利用していますか。
< 回答方法 >
・利用している
・利用していない (導入予定あり)
・利用していない (導入予定なし)
・わからない
から単一選択

活用実態

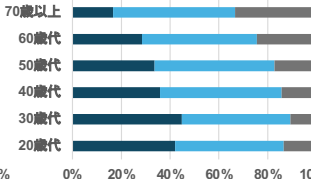
オンライン資格確認システム



電子薬歴 (クラウドは除く)



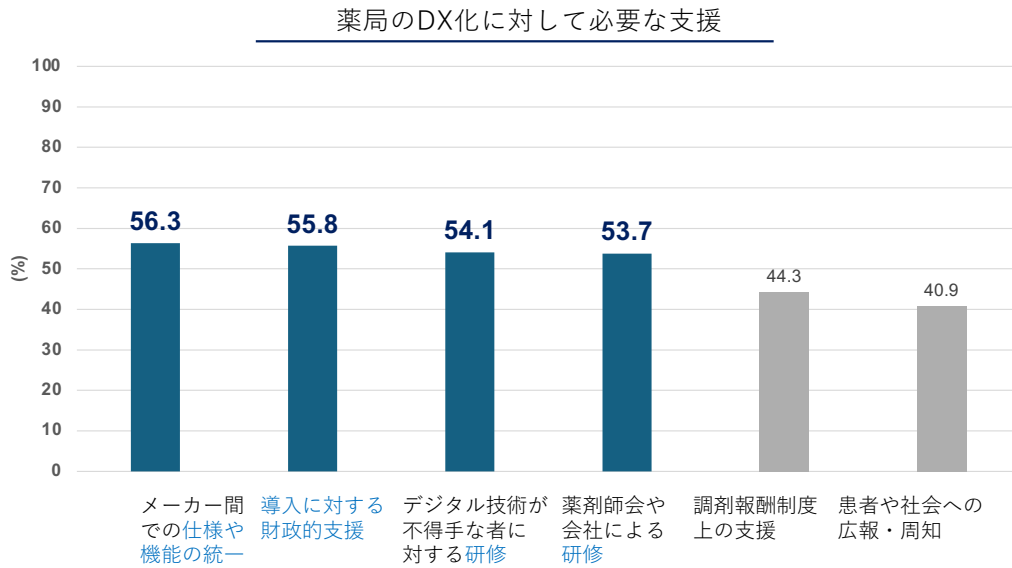
電子お薬手帳



< 質問項目 >
あなたは以下の機器・システムを使いこなせていると思いますか。
< 回答方法 >
・不自由なく使用できる (紺)
・基本的な機能は使用できる (水色)
・使いこなせない (灰色)
・使っていない
から単一選択

年代が上がるほど、利用率の高い機器・システムを使用しておらず、またそれらを使用している場合でも使いこなせていない傾向にある

結果 機器の仕様統一、導入時の財政的支援、研修の充実を求める声が多く、いずれも半数を超えた

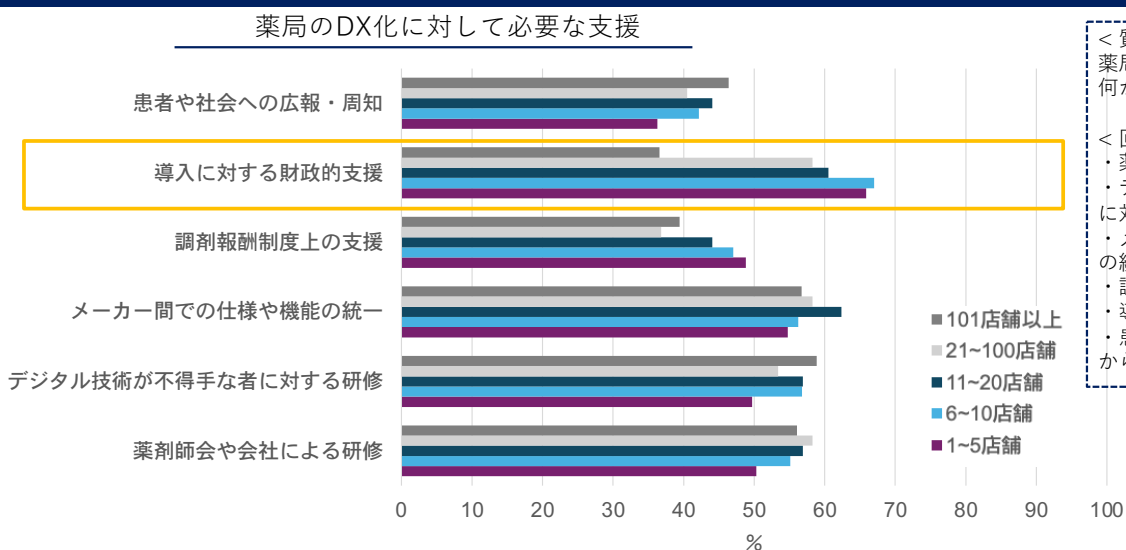


< 質問項目 >
薬局におけるDX化に対して、何か支援が必要ですか。

< 回答方法 >
・薬剤師会や会社による研修
・デジタル技術が不得手な者に対する研修
・メーカー間での仕様や機能の統一
・調剤報酬制度上の支援
・導入に対する財政的支援
・患者や社会への広報・周知
から複数選択可で選択

必要な支援は、機器の仕様統一、導入時の財政的支援、研修の順に多く、いずれも半数を超えた

結果 規模が小さい薬局の薬剤師は、導入時の財政的支援や調剤報酬制度上の支援を求める傾向がある



< 質問項目 >
薬局におけるDX化に対して、何か支援が必要ですか。

< 回答方法 >
・薬剤師会や会社による研修
・デジタル技術が不得手な者に対する研修
・メーカー間での仕様や機能の統一
・調剤報酬制度上の支援
・導入に対する財政的支援
・患者や社会への広報・周知
から複数選択可で選択

- ✓ 規模が小さい薬局に勤務する薬剤師は、導入時や調剤報酬制度上での財政面での支援を求める傾向がある
- ✓ 薬局の規模に関わらず研修の充実や機器・システムの仕様統一を求める声は多く、どの店舗規模でも半数を超えた

考察 年齢及び薬局のグループ規模を考慮した支援が求められる

- 本調査から、薬局DX推進時に薬局薬剤師が直面している課題や、それに対して望まれる支援を明らかにすることができた
- 機器・システムの使用に際しては、**研修の充実や機器の仕様統一等**が求められており、特に、年代が上がるにつれて、利用率の高い機器・システムであっても利活用を困難に感じる傾向があることから、**年次の高い薬剤師に対する重点的な支援**が必要であると推測された
- 導入時には、特に**個人経営の薬局に対する財政面での援助等**が求められることが示唆された



今後の展望

Limitation

- 本研究では薬局DX推進時の課題及び支援策の概観を捉えることしかできなかった
- また、回答者が管理職にやや偏ってしまったため、臨床現場で薬剤師が直面している課題・支援策よりも、財政面や経営面での課題・支援策が強く反映される傾向が見られた

今後の展望

- より臨床に近い現場で薬剤師が感じている課題や必要としている支援について、具体的に何う機会を設けたい
- 現職の薬剤師の方を招いた**ワークショップ**の実施を予定しており、現場の声を直接何うことで、薬局DX推進時の課題や支援に対して理解を深めたい

本研究及び今後実施予定のワークショップの結果を踏まえ、薬剤師が求めている支援を明らかにし、薬局DX推進の一助としていきたい